



伊那市議会12月定例会では23議案と請願・陳情1件、議員提出議案1件が提案され審議を行いました。今定例会に上程された議案と請願・陳情を紹介します。

全会一致で可決した議案など

(一般案件)

- ◆市道路線の認定(伊那インター工業団地整備に伴い、大芝18号線の認定について可決しました。)
- ◆市道路線の廃止(市道としての機能を喪失している丸山3号線(高遠町上山田)の廃止について可決しました。)
- ◆公の施設の指定管理者の指定(公園施設、体育施設など14施設の指定管理者の指定について可決しました。)
- ◆訴えの提起(不正受給した生活保護費の返還請求に係る訴えの提起について可決しました。)

(条例案件)

- ◆税条例等の一部改正(市税、使用料などの督促手数料を徴収しないこととする改正について可決しました。)
- ◆行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する条例の一部改正(マイナンバーによる医療保険加入状況の確認を可能とする改正について可決しました。)
- ◆保養センター条例の一部改正(仙流荘などの入浴料の改定について可決しました。)
- ◆キャンプ場条例の一部改正(小黒川渓谷キャンプ場の利用料金の改定について可決しました。)
- ◆市営住宅条例の一部改正(若宮団地の若者・子育て向け住宅の設置と、その他の住宅の家賃の特例期間の延長について可決しました。)
- ◆高遠城址公園使用料徴収条例の一部改正(高遠城址公園の入園料の改定について可決しました。)
- ◆水道事業及び下水道事業の設置等に関する条例の一部改正(法律改正に伴う引用条項の修正について可決しました。)
- ◆水道事業給水条例の一部改正(法律改正に伴う引用法令の修正について可決しました。)
- ◆一般職の職員の給与に関する条例及び一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部改正(人事院勧告の内容を踏まえ、一般職の職員の給料月額等の改定などについて可決しました。)
- ◆特別職の職員の給与等に関する条例の一部改正(人事院勧告の内容を踏まえ、特別職の職員の期末手当の額の改定などについて可決しました。)
- ◆国民健康保険税条例の一部改正(子育て支援の拡充に向け、産前産後期間に係る所得割額、均等割額の減額などの改正について可決しました。)

(令和5年度補正予算案件)

◆一般会計 2案件、特別会計4会計、企業会計2会計

(エネルギー等価格高騰による低所得世帯への支援、新型コロナウイルス予防接種後の健康被害に対する給付、民間企業の設備投資に対する資金の貸付けなどに対する補正予算(計7会計、8案件)を可決しました。)

賛否の分かれた議案など

■議案について 賛成…○、反対…× ■請願・陳情について 採択…○、不採択…×
(なお、原則として議長は採決に加わりません。)

区分	件名	委員会結果	池上謙	伊藤のり子	唐木拓	小池隆	篠塚みどり	高橋姿	高橋明星	三石佳代	湯澤武	吉田浩之	小林眞由美	田畑正敏	原一馬	三澤俊明	宮原英幸	二瓶裕史	野口輝雄	唐澤千明	飯島光豊	柳川広美	白鳥敏明(議長)	本会議結果
請願・陳情	◆国に対し「健康保険証廃止の中止を求める意見書」の提出を求める陳情(陳情)	不採択	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○		不採択
議員提出議案	◆日本政府がイスラエルの地上侵攻と空爆の即時停止、ハマスによる人質の解放のために全力を尽くすことを求める意見書の提出について	付託省略	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○		可決

※請願・陳情については、陳情者の希望により、氏名、団体名を記載していません。

12月伊那市議会定例会 一般質問から

令和5年12月伊那市議会定例会の一般質問は、12月5日、6日、7日の3日間にわたって行われ、20人の議員が質問に立ちました。質問と答弁の主な内容をお知らせします。



こいけ たかし
小池 隆



職員定数管理と会計年度任用職員の活躍及び新たな職域への登用について

問

小池隆議員 市職員数の適正化について、近年、職員の時間外勤務時間が増加傾向にある中、今後の業務を見据えた適正な職員数及び職員のワーク・ライフ・バランスの実現に向けた働き方改革に沿った計画の策定をすべきでは。

答

市長 各部署の業務量などを集約し、人件費も勘案し、必要な職員数を精査したい。働き方改革についてもしっかりと議論しながら柔軟性を持った内容としたい。

問

小池隆議員 女性の割合が多い会計年度任用職員について、フルタイム化を導入し、処遇改善することで、女性の発想を活かした活躍の場、所得向上、雇用の確保、職員の負担軽減など、その効果は大きいと考えるがいかがか。

答

市長 導入の必要性を研究したい。

市報等における「声の広報」の利用促進について

問

小池隆議員 こだまの会が音訳している市報いな「声の市報」を誰もが利用し、聴くことができるよう、市のホームページからダウンロードなどできるようにしてみたい。

答

市長 令和5年12月号の市報から実施する。



はら かずま
原 一馬



伊那市社会福祉協議会の不祥事により滞っている成年後見事業について

問

原一馬議員 社協が受け入れていた成年後見を必要とする人たちの受け皿が、現在ほぼ無いと思われる。また、弁護士会、司法書士会、社会福祉士会などが分担して受任しているが、新規依頼への対応と現状は。

答

市長 弁護士などの各専門職の団体と調整している。新規の依頼は、負担増となっていることは承知している。

問

原一馬議員 裁判所の制限解除の見込みは。

答

市長 社協は、不祥事再発防止対策報告書を裁判所へ提出し、判断を待っている。

問

原一馬議員 社協の成年後見事業の、この先の見通しについて。

答

市長 早期の再開を望んでいる。上伊那成年後見センター運営委員会で、業務運営管理の強化のため、定期的に業務

適正化に関する確認体制を取っている。

物価高対策、地方自治体ができる経済対策「プレミアム商品券」の発行を

問

原一馬議員 物価高で実質賃金は更に下がっており、苦しい地域住民の生活や厳しい状況にある事業所を支援するためのプレミアム商品券「いなほ」と券第5弾」の発行を。

答

市長 困窮者支援もあり、現時点では考えていない。



いけがみ けん
池上 謙



南アルプス林道バスの自動車運送事業について

問

池上謙議員 新型コロナウイルス感染症の第5類移行後の運送実績などどうか。

答

市長 山梨県側が不通とス林道バス、山小屋ともに非常に好調であった。

長谷総合支所長 過去2番目の輸送実績となり、6万298人であった。ジオライナーの利用も

コロナ前の約5倍となった。

問 池上謙議員 分杭峠の新規路線について、市野瀬入野谷の宿泊施設に、バス停留所を設置していただきたい。

答

市長 入野谷の有効活用を検討しているが、現状では難しい。仙流荘駐車場の満杯状態が発生するようであれば、今後停留所の設置を検討する。

長谷地区の景観を美しくする「モミジの里づくり事業」の実施について

問

池上謙議員 長谷地区の国道152号の沿線及び美和ダム左岸にあるさと納税寄附金を活用して、もっとモミジを植栽したらどうか。

答

市長 急傾斜の場所が多く簡単にはいかないが、長谷モミジの会の協力を得て、今後もモミジの里づくりを継続したい。





学校へのチラシ配布のデジタル化について

問 唐木拓議員 現在、小中学校へのチラシ配布は紙のみで、学校・学級単位で仕分けして依頼する必要があるが、データでの配布も実現していただきたい。

答 教育次長 業務改善として有効であり、他市町村の取組みを参考にして検討したい。

市街地循環バスの有効利用について

問 唐木拓議員 市街地循環バスのイーナちゃんバスは、市街地を循環して便利であるが、乗車数が少ないのが見受けられる。ぜひ高校生以下の無料または格安の設定、フリーパスの発行などにより、有効活用してはどうか。街に若者が増えることで活性化につながるのではないか。

答 市長 特定路線のみの設定は、民間路線への影響などあり、現実的には難しい。



自治会・町内会等の今後及び地域社会の在り方について

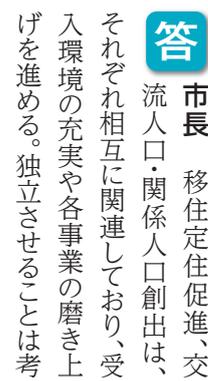
問 宮原英幸議員 自治会に多くの役職があり、役員選出に苦労している。また、自治会未加入者の増加や移住の課題もあり早急に整理すべきではないか。

答 市長 市から依頼するものについては、更に見直して廃止できるかなどの検討をした。現状では加入促進の条例制定などは考えていない。さらに、地域社会の在り方の議論を進めるには、まずは各地区が自主的に議論することが重要と考える。将来的には検討会の設置を含め検討したい。

移住定住促進に関わる関係人口の創出施策について

問 宮原英幸議員 関係人口の創出は、今後の重要課題である。人口増進事業の中で、当該事業を独立推進しては。

答 市長 関係人口の創出は、今後の重要課題である。人口増進事業の中で、当該事業を独立推進しては。



宮原英幸議員 友好都市との交流について、交流内容に差が大きいように見える。今後の展開について、交流内容を増やすべきではないか。

問 宮原英幸議員 友好都市との交流について、交流内容に差が大きいように見える。今後の展開について、交流内容を増やすべきではないか。

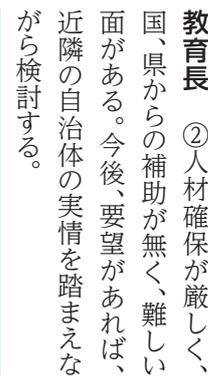
答 市長 それぞれの友好都市の規模や特徴もあり、全て同様の内容というわけにはいかないが、民間交流も含め、双方の市民益につながる交流を進めたい。



伊那市において、早期の学童保育が必要ではないか

問 野口輝雄議員 多くの年長園児が早期保育を利用している現状から①これまでに早朝の学童保育の要望がなかったか。②伊那市において早朝の学童保育が必要かを検証してほしい。

答 市長 ①これまでに早朝の学童保育の要望はなかった。



写真という視点で伊那市全体の魅力を発信する大イベントができないか

問 野口輝雄議員 伊那市の魅力を全国規模の写真コンテストで発信できないか。

答 市長 既に100以上の全国規模の写真コンテストがある中で、後発は不利である。今後は、拡散手段を考えながら検討していく。



フィンランドの視察を伊那市政にどのように生かしていくか

問 二瓶裕史議員 視察を経て「教育と人材育成が喫緊の課題」としているが。

答 市長 体系付け、時代にあった進め方が求められる。フィンランドの教育現場との



義務木育と生涯木育について

問 二瓶裕史議員 ①既に多くの木育に取り組んでいるが、それらを更に体系的に整理して発展できないか。②木育拠点施設の設置を。

答 市長 ①体系付けて進めていく作業に入っている。②「森と学びの拠点施設」があり、その中に木育の部分もある、というようなものが良い。民間と行政が一緒になって考えていくのが望ましい。

改正障害者差別解消法について

問 二瓶裕史議員 来年4月から、民間事業者も過重な負担のない範囲で「合理的配慮の提供」が必要となる。環境整備のための補助金を。

答 市長 過度な負担にならない範囲での配慮を、ということなので、補助金で整備をするもの、という考えはない。



みざわ としあき
三澤 俊明



零細・小規模事業所の 工業振興について

問 三澤俊明議員 人材育成補助事業の利用状況はどうか。

答 商工観光部長 製造業が過半数を占めている。そのほとんどが社員数20〜100名の中小企業である。

問 三澤俊明議員 零細・小規模事業所のDX活用促進事業の導入状況はどうか。

答 市長 補助金利用事業者のうち、小規模事業者が過半数を占めており、零細・小規模事業所の生産性向上に寄与している。

問 三澤俊明議員 工業メッセなど展示会で伊那市のブースを設け、零細・小規模事業所の営業活動を行ってみたいかどうか。

答 市長 特定の展示会への支援は偏りを生じさせる心配がある。企業の社長や技術者が生の声を来場者に伝えることが大事と考える。

通学費補助について

問 三澤俊明議員 努力義務化された一般自転車用ヘルメットに対し補助金を予定していることから、自転車通学用ヘルメットは無償化しただろうか。

答 教育次長 無償化は難しいが、通学用ヘルメットに対しても、本議会に上程されている購入支援事業により、2千円を上限に購入費の半額を補助する。



こばやし まゆみ
小林 眞由美



子ども・若者・高齢者が ともに支え合える 環境づくりについて

問 小林眞由美議員 民間での居場所の運営などの活動に対して、補助金の支援は。

答 市長 現在、社会福祉協議会で「子ども共育プロジェクト」申請団体の居場所事業に対して補助金を交付している。また、「子どもの未来応援隊」に寄せられた寄付金や国の交付金を活用して子ども食堂の支援をしている。今後も居場所に関わる事業に対して必要があれば、更に支援を考えたい。

問 小林眞由美議員 子どもも若者・高齢者がともに支え合える環境・居場所づくりについて、今後の考えは。

答 市長 各地域には日常的に多世代交流の場、支え合いの場として利用されている「まちの縁側」が81か所あり、今後も伸びることを期待している。世代を超えての居場所については、高校再編に伴う伊那北駅周辺の開発、伊那市駅から伊那北駅までのまちの活用など、現在の資本を使つての安心安全な新しいまちづくりの中で、若者が留まるまち、幅広い年代の方々が支え合い、交流することができる居場所づくりを検討していきたい。



ゆざわ たけし
湯澤 武



障害者就業支援の推進について

問 湯澤武議員 障害者就業支援の充実へ、各種の取組みを具体化するべき。

答 市長 一般就労、障害者枠での就労、福祉事業所の作業などへ、関係機関と連携し環境を整える。経木や麦ストロー、雑穀作り、林福連携も進めたい。デジタル活用について、策定中の障害者計画に包含し、障害者が就労の機会を得られるよう配慮していく。

犯罪被害者等支援条例 の制定について

問 湯澤武議員 犯罪被害者等支援条例の制定の際には、弁護士による報道対応に係る代理人制度の導入を。

答 市長 被害者の心身の苦痛緩和に重要である。県弁護士協会と協議を行っていききたい。また、支援のためのイベントなどの開催も検討を進める。

市の物価高騰対策について

問 湯澤武議員 物価高騰対策を急ぐべき。

答 市長 国の低所得世帯への7万円支給について、1月中旬以降迅速に対応する。市独自の対策も進めていく。



からさわ ちあき
唐澤 千明



通学路の安全管理について

問 唐澤千明議員 ①市内小学校のほとんどが通学路を設けているが、中学校はどのような状況か。②春富中学校が行った通学路の危険箇所調査に基づくマップができ、デジタル化が進んでいる。対策の加速化について考えは。

答 市長 ②デジタル化を進めるとともに、通学路の緊急点検箇所や交通事故のデータを重ねることで、情報の共有化や対策案の検討に至るプロセスの迅速化の仕組みを検討している。社会実験を通して、取組みを全市に広げる持続可能な仕組みの構築を目指したい。

教育次長 ①年度初めに通学方法を確認しており、春富中と長谷中の2校は通学路を指定している。他校は、各家庭から出された経路を通学路としている。

伊那市の観光推進について

問 唐澤千明議員 大きなイベントを開催しようとしても宿泊施設が足りない。広域での観光推進について考えを。

答 市長 三遠南信自動車道の開通を見据え、飯田市遠山やリニア長野県内駅、駒ヶ根市菅の台に、観光だけでなく就業や移住相談などの多様な機能を持たせた総合案内所の設置を計画している。今後も「伊那バレー」として、広域で連携して取り組んでいきたい。



伊那市の財政運営について

問 吉田浩之議員 人口が減少する中で、市民税の税収をどう見込んでいくか。

答 市長 生産年齢人口の推計に基づいて算出している。

問 吉田浩之議員 歳入の減少に併せ、投資規模も縮小していくべきであるが、投資規模をどう見込んでいくか。

答 市長 投資的経費に充当する一般財源を見込み、毎

年度作成する実施計画で規模を定めている。

問 吉田浩之議員 税収の減と経常経費の増が見込まれる中、今後の財政状況にどのように対応していくか。

答 市長 投資的経費の総量抑制や施設の長寿命化、統廃合により経費の削減に努める。

問 吉田浩之議員 令和6年度から8年度までの建設事業費の見込みは幾らくらいか。

答 市長 6年度は58億7千万円、7年度が57億円、8年度が47億9千万円である。

問 吉田浩之議員 税収が減る中で実施計画の増加は、伊那市財政健全化プログラムと矛盾するのではないか。

答 市長 事業は施設の長寿命化も含んでおり、事業費の増全てが経常経費の増を意味するものではない。

問 吉田浩之議員 予算編成に当たり、歳出削減で重点としているのは。

答 市長 経常経費の一部にシーリングを設け、事業の先送りや事業間の調整を図り、真に必要な予算の計上に努めている。



フィンランド教育視察について

問 高橋姿議員 フィンランド教育視察の重点は。

答 市長 森林教育、理解するまで繰り返し教える教育、今後の交流も視野に入りたい。予算面の決定は、今後内容を精査して行いたい。

問 高橋姿議員 インクルーシブ教育について、保育園と児童発達支援、学童と放課後デイの併設型支援が昨年末から制度上可能になった。発達障害児などに専門的な職員を配置でき、費用面でもメリットがある。行政として取り組む考えは。

答 市長 現時点ではそれぞれれの施設が機能しており、市が一体的に行うことは現段階では必要ないのではないかと考えている。

問 高橋姿議員 新たな居場所としてフリースクールの必要性と今後の支援は。

答 市長 学びの選択肢の一つ。極めて重要。運営が厳

しいとも聞いている。独自の補助金で支援している。

問 高橋姿議員 世界一の図書館を見学してきたと聞いた。伊那市立図書館も子どもから高齢者までの居場所としての機能を更に高めてほしい。

答 市長 音楽や映像、工作室などの新しい機能を持ち、楽しく過ごせる機能を持った新しい形の図書館を見てきた。新しい機能を持たせるのは大賛成だ。



国道、県道、市道における通学路及び生活道路の安全対策について

問 飯島光豊議員 国道沢渡交差点横断歩道を移設し、犬田切橋に歩道を。

答 建設部長 県警が信号機と横断歩道の移動を今年度行う。

問 飯島光豊議員 東春近のみやま坂など、危険な通学路についての市の認識は。

答 市長 自転車通行帯設置や滞留確保など、県と検討を進める。

問 飯島光豊議員 市は、自衛隊員適齢者名簿として、市民に周知せず提供しているが、義務かそれとも義務ではないか。

答 危機管理監 義務ではないかと考える。

問 飯島光豊議員 個人情報提供を提出されたくない人の「除外申請制度」を実施する来年度まで、あと数か月。申請受付のスケジュールは。

答 危機管理監 来年度からの実施に向け検討し、周知したい。

問 飯島光豊議員 県内の塩尻市は「除外申請」受付期間を4か月取り、電子申請も行うとしている。市は周知のチラシを作成し配布を。

答 危機管理監 周知方法の一つとして参考に検討をしている。

問 飯島光豊議員 新たな居場所としてフリースクールの必要性と今後の支援は。

答 市長 学びの選択肢の一つ。極めて重要。運営が厳

問 飯島光豊議員 事前に議会に報告を。

答 市長 検討して、臨時議会などで事前に報告したいと考える。



たかはし めいせい
高橋 明星



これからの伊那市の教育について

問 高橋明星議員 伊那市には「こども主体」の、こどもの

自主性を重んじた教育への理解がある。しかし、「こども主体」の教育や「一人のこどもも取り残さない教育」を行うにはマンパワーが必要。国が動かなくても伊那市独自の教育として、教育予算の増額、補助員の更なる配置は難しいか。また、フィンランドで見てこられた教育をどのようにフィードバックすることが可能であるのか。

答 市長 旧高遠の進徳館の教えである「実学」は、フィンランド教育と合致するところも多い。共通項を確認しながら教育現場で実践していくのが良いと思う。フィンランドは森と

共に生き、森の中から学びを得ている。伊那市は自然の中で自ら学ぶカリキュラムを行っている。赤ちゃんから大学まで一貫して見ていく社会、地域を作っていくのが理想。

教育にかかる予算は惜しまないのが伊那市の教育現場のスタイル。必要なものはしっかりかけて、教育現場を充実させる。伊那市は伊那市の路線でしっかりとした教育の在りようを作り上げていく。



いと のりこ
伊藤 のり子



男性の育児休業と子育て女性の所得向上について

問 伊藤のり子議員 未婚男女の子どもを持つ意欲が

低下し、女性が望むライフスタイルも変化している。子どもを持つ女性がキャリア展望のある働き方を目指せることが肝要である。そのために男性の育児休暇は外せない。①令和7年に男性の育児取得率を30%にするための施策は。②育児取得者の代替要員の確保

が課題だが、どう対処するか。③女性の年収を引き上げることについて援助する考えはあるか。

答 市長 ①男性職員の育児休業取得率の目標値は30%としている。今後も職場環境を整えながら制度の利用を進めていく。②適正な職員の採用と配置を検討する。③ハローワークと連携した説明会などを企画している。賃上げについては、国や県と連携しながら企業に対して働きかけを行う。

「伊那市民俗資料館 休憩施設」について

問 伊藤のり子議員 ①今後

の取組みの予定はあるか。②施設の活用確認は行っているか。

答 市長 ①来館者の満足度の向上、増加につなげたい。②定期的に確認は行っている。



たばた まさとし
田畑 正敏



高遠さくらホテルへのサウナ風呂設置の再提案とインバウンド(訪日外国人)の取込みについて

問 田畑正敏議員 さくらホテルの次のビジネスへの起爆剤として「フィンランド方式の本格的サウナ風呂」の設置を再度提案するが。

答 市長 ホテル周辺のスペース、宿泊客との共用などのハードルが高い。夢は捨てていないので、今後も伊那市観光(株)と検討していきたい。

問 田畑正敏議員 新型コロナウイルスが5類に移行された6月以降のインバウンド宿泊者の利用状況は。

答 商工観光部長 さくらホテルに35人、山小屋に64人である。

火の見櫓の老朽化への対応について

問 田畑正敏議員 市内に残っている火の見櫓の設置

数と現在の利用状況は。

答 危機管理監 確認されている火の見櫓は70基。ホース掛けに45基、防災無線などに10基が利用されており、15基が利用されていない。

問 田畑正敏議員 火の見櫓の所有及び管理についての市の見解は。

答 市長 設置者は、区または町と思われる。維持管理についても、現状は区などをお願いしている。



やながわ ひろみ
柳川 広美



学童クラブの運営について

問 柳川広美議員 拡声器を使っている、狭くて混み合っているとの声がある。拡声器は耳の発達に悪影響。1単位25人ぐら

いにするべき。おとなしい子ども使える学童クラブに。人手不足なら正規職員の派遣をすべき。

答 教育長 拡声器は限定的な使用にしている。指導員に音量や場面など十分に配慮を求めている。指導員の増員は、人員確保、財政面から困難。屋内、

屋外、学校施設を使い、グループ分けするなど工夫している。長期休暇は、課の職員が対応することもある。

中学校制服を ジェンダーレスに

問 柳川広美議員 男女とも制服のスカート・ズボンを選べる、上着も詰め襟、ブレザーを選ぶなどにはどうか。

答 教育長 性の多様化への理解が深まり、制服の見直しも必要。市内で既に見直しに着手している所もある。男女区別のない運動着を制服代わりに着用することを認めている学校や、スカート・スラックスを選択できる学校もある。



みつい かよ
三石 佳代



福祉施設従事者の サポート体制強化について

問 三石佳代議員 介護施設の人手不足は深刻な状況。サポート体制強化の必要性についてどう考えるか。

答 市長 定期的な意見交換し、協議している。今後も行政ができる支援を研究し、補助事業の周知も図る。

問 三石佳代議員 伊那市が取り組む新産業技術を、介護施設従事者の支援事業としてほしいという要望があるが可能か。

答 市長 高齢者などの外出機会創出目的で内閣府の交付金を受けており、施設入所を必要とする方については、当初から対象としては盛っていない。

新たな治水事業の在り方、 海への水路開通の検討について

問 三石佳代議員 治水対策は最優先の課題である。ダムによる治水事業は良い方法か。

答 市長 天竜川流域治水のために戸草ダムは必要で、早く進めるべき。

問 三石佳代議員 トンネル技術が進化している。海まで水路開通する新しい治水事業を検討してはどうか。

答 市長 膨大な時間と費用がかかる。ダムが最適だと考える。



しのづか
篠塚 みどり



リトルベビーハンドブック 設置について

問 篠塚みどり議員 低出生体重児に対する配布は。

答 市長 県と共有し、令和6年4月から配布する。1500g以下は全員、2500gまでは希望者に配布する。

保育士の確保対策と 処遇改善について

問 篠塚みどり議員 保育士の確保対策と処遇改善や、任期付職員の採用は。

答 市長 県内市町村の動向を検討する。保育補助者の活用を更に広げる。任期付職員の採用は、育児休業職員の不足補填に有効であり、研究を行う。

国道153号伊那バイパス 早期工事再開と、 進捗状況について

問 篠塚みどり議員 早期工事再開と進捗状況は。

答 市長 雨水対策や市道上牧笠原線交差点の設計及び地権者との協議を進めている。

市として事業が一日も早く進むよう切望している。県へ事業促進を強く要望していきたい。

お知らせ

請願・陳情

請願・陳情は、原則として定例会開会前に開催される議会運営委員会の前日正午までに提出されたものを、その定例会で審査します。

ご提出いただきました請願・陳情は、定例会本会議で委員会へ付託され、審査を行います。本会議での委員長報告後、採決します。

次回3月定例会審査の受理期限は、2月14日正午です。(期限は、変更となる場合もあります。議会事務局へご確認の上ご提出ください。)

傍聴にお越しください

市議会はいどなたでもお気軽に傍聴することができます。是非お越しください。

過去の議案などについて

過去の議案、議会中継映像などについては、市議会ホームページに掲載してありますので、ぜひご覧ください。

QRコードについて

議員の写真下にあるQRコードを読み取ると、一般質問の動画が閲覧できます。ご活用ください。

※「QRコード」は(株)デンソーウェーブの登録商標です。



伊那市議会
ホームページはこちら

フェイスブックについて

伊那市議会では、議会の公式行事など様々な情報を発信するため、フェイスブックの運用をしています。



伊那市議会公式
Facebookはこちら

伊那市議会 常任委員会活動報告

令和4年5月10日に発足した常任委員会2年間の活動のうち、主なものをまとめとして報告させていただきます。常任委員会では、付託議案の審査、請願・陳情の質疑と討論を行い委員会での採決をします。その他、関係事業や施設の状況確認のための活動を行ってきました。令和6年5月には市議会内の改選を迎えますので、委員会構成が変更となります。

総務文教委員会

田畑正敏(委員長)、小林眞由美(副委員長)、高橋明星、吉田浩之、白鳥敏明、唐澤千明、飯島光豊の委員7人で発足し、議案審査のほか様々な活動を行ってきました。

○NPO法人子ども・若者サポートはみんぐとの意見交換

令和4年9月28日に不登校児童生徒の支援活動の現在の状況について説明を受け、意見交換の中で課題等について認識を新たにしました。

○行政視察

令和4年10月5～7日に、岐阜県飛騨市「飛騨市学園構想について」、岐阜県瑞浪市「防災ラジオシステム整備事業について」、石川県かほく市「定住促進事業について」の3市の先進事例について、行政視察を行いました。

○教育委員会との懇談会

令和4年10月14日に開催し、学習指導要領の変更、子ども自立支援団体の活動について説明を受け、意見交換しました。伊那市の教育理念「はじめに子どもありき」に向けた取組みが着実に進められていることが確認できました。



教育委員会との懇談

○市民と議会との意見交換会

毎年2会場で実施する中で、市民の皆様より多くの意見をいただきました。今後の議員活動



意見交換会(いなっせ)

議会ひとくちメモ 委員会ってなに？

議会には数多くの議案や請願・陳情などが提出され、その内容も幅広い分野にわたります。それらを専門的・効率的に審査するため、分野ごとに担当委員会を設置しています。委員会には、常設の「議会運営委員会」と「常任委員会」、必要に応じて設置する「特別委員会」があります。伊那市議会には3つの常任委員会が設置されています。

社会委員会

二瓶裕史(委員長)、伊藤のり子(副委員長)、唐木拓、篠塚みどり、三石佳代、原一馬、三澤俊明の7人で構成されています。

○市民と議会との意見交換会

毎年2会場で開催し、いただいた意見を集約して、議員で協議しています。令和5年度は「公園について」「子育て世代の声」をテーマとして取り上げました。

○行政視察

令和4年度に、愛知県春日井市の子ども屋内遊び場「ぐりんぐりん」、愛知県蒲郡市「蒲郡市いきいき市民健康づくり事業」、静岡県藤枝市「健康・



愛知県蒲郡市視察

予防日本一ふじえだプロジェクト」を研修してきました。

○うずまきファミリーの視察

令和5年9月29日に、伊那市高遠町三義地区のファミリーホーム「うずまきファミリー」を視察研修してきました。

「うずまきファミリー」は、長野県第1号のファミリーホームで、家庭環境が整わず保護を必要とする児童を、里親などの経験豊かな養育者がその住居において養育を行う小規模住居型児童養育事業を行っています。



うずまきファミリー視察

里親の宇津孝子さんは、親や子どもたちの様々な状況がある中、行政などの仕組みの隙間を子どもたちのために何とかつなごうと奮闘しています。

に反映していきます。

○タクシー事業者との懇談会

令和5年6月12日に、ぐるっとタクシー、デジタルタクシーの現状や問題点、課題等をお聴きしました。利用者側とは違った、運営側の考えや思いを知ることができた貴重な時間でした。今後の検討に生かしていきます。

○関係市内施設の現地調査

総務文教委員会所管の施設及び、長谷総合支所建設現場、高遠総合支

所建設予定地等を調査しました。



長谷総合支所建設予定地
現地調査

経済建設委員会

宮原英幸（委員長）、湯澤武（副委員長）、池上謙、小池隆、高橋姿、野口輝雄、柳川広美の委員7人で活動を行ってきました。

○馬の背ヒュッテの視察

令和4年8月2日、令和4年度予算にて購入を決めた物件の実情を確認しました。

ヒュッテの定員は45名、専任の管



理人が常駐し良く整備されていましたが、昭和62年竣工の木造で半割丸太のログ壁構造の建物については、今後の外壁の防腐・防風対策、トイレ改修の必要性を確認しました。

令和4年の利用者は約600人、令和5年は1800人を数えました。増加する登山者の安全性向上が期待されます。

○林業「架線集材」作業現場の視察

令和5年11月7日、南信森林管理署発注の「森林環境保全整備事業」黒河内国有林内の現場で、国県林業関係者と受託業者である平澤林産社長より説明を受けました。

宇津さんの信念は「子どもの成長をゆつくり待つこと」。預かった子どもは最初のうちはなかなかつかないようですが、その子どもにとってここが安心、安全で信頼できる環境であるとわかつてもらえる日を待つということ



宇津さんからのお話

架線集材では1km奥から伐採木1トンを10分間で降ろし、重機で規定のサイズに切断し、積み上げてい



林業現場視察

した。こうした連続作業を2人で行う様子に驚きました。国県と連携した安定的生産性の維持、人材の育成、森林の保全と防災効果などを学ぶことができました。

○伊那市観光株式会社施設現況確認

この2年間、伊那市観光株式会社は課題について、定期的に施設見学や収支状況の聞き取りを行ってきました。

○上伊那助産師会との懇談会

令和5年11月29日に助産師5人と産後ケアの現状等について懇談しました。産後の気持ちや体を楽にする必要のある母親があっても、楽をするなんてぜいたくといった感覚があり、なかなか利用につながらない現状があるとのことでした。伊那市でも今ある施設や人材、制度を使って、すべての母親が利用しやすい産後ケアにしていきたいという前向きな考えをお聞きました。

特に「高遠さくらホテル」の令和6年の観桜期に向けての改修箇所、「仙流荘」の券売所などの改築と駐車場の拡大について説明を受け、意見交換をしました。現在、入浴部門の「みはらしの湯」、 「さくらの湯」は民間委託業者の公募を含め、大きな転換期を迎えています。



さくらホテル視察

○市民と議会との意見交換会

毎年2会場で開催し、令和5年度では、「高校再編とこれからのまちづくり」「これからの観光」をテーマにご意見をお聴きしました。